

光量子情報処理学 日亜化学が寄付講座

東大、来月開設

東京大学は4日、日亜化学工業（徳島県阿南市）の寄付講座「光量子情報処理学」を4月1日に開設すると発表。古沢明教授ら東大の3研究室で、次世代コンピューターとして期待される「量子コンピューター」の実



用化に向けた研究開発や人材育成を行う。東大本郷キャンパス（東京都文京区）にある既存の建物の一室を寄付講座の部屋とするほか、各研究室でも研究開発を実施する。寄付総額は2億5000万円。講座の設置期間は4月1日からの5年間。講座終了後に量子コンピューターの実用化に向けた開発ロードマップを製作した

古沢東大教授⑤と向井孝志日亜化学工業取締役

役

い考え。
講座では「量子テレポーテーションを応用した時間領域多重大規模量子コンピューターの研究」「超伝導光子数識別器の開発」「極限コヒーレント光通信用位相基準としての光格子時計活用法に関する基礎研究」の3テーマを実施する。古沢教授は「各テーマで得られた知見を統合したシステムを構築し、人間社会の課題解決を目指したい」と意欲を見せている。